情報コーナー

「青少年リスタートプレイス」事業紹介

東京都内の都立及び私立高校の中退者は、年間８千人近くに上り、大きな社会問題となっています。

そこで、東京都青少年育成総合対策の取組みの一つとして、本センターに、中退した方やその保護者を支援するための「青少年リスタートプレイス」を昨年４月に設置しました。他の高校への編入学・再入学、通信制や単位制高校の特徴、高等学校卒業程度認定試験などについて、相談や情報提供を行うとともに、東京しごとセンター等の関係機関と連携して支援しています。

実際の相談事例をご紹介します。（相談内容は、個人が特定されないように変更を加えています。）

私立高校を１年生で中退した事例〈母親からの電話相談〉

〈相談の内容〉

１学期までは順調に学校生活を送っていたが、２学期に入り、頑張っていた野球部で人間関係のトラブルがあり、先輩との関係が上手くいかなくなった。本人はいじめと感じていた。

その頃より、学校に行こうとすると頭やお腹が痛くなり、やがて一歩外に出ようとすると体が震え、足が動かない状態が続いた。

転校も考えたが、心のダメージが大きく、それもできず中退した。穏和で真面目で、中学校の頃は、生徒会の副会長も務めていた。現在は、ほとんど家の中で過ごしており、外に出ようとしない。ひきこもりになるのではないかと心配している。最近になって、本人もこれではいけないと感じ始めてきた。今後どうしたらよいだろうか。

〈助言の内容〉

○　まず、本人が自信を取り戻すことが大切で、いいところをたくさん褒めてほしい。
○　本人が、何をやりたいか、今後どうしたいかを、ゆっくりと聞く機会をもってほしい。
○　それをもとに、目標をもてるように、有効な情報をさりげなく伝えてみてはいかがか。
○　本人と一緒に、来所していただければ、都立の新しいタイプの学校や、編入のための補欠募集、高校卒業程度認定試験や、就職等の情報を伝えることができるので、勧めてみてはいかがか。

〈相談者の様子〉

はじめ、低く小さかった母親の声が、明るく大きくなり、母親は「早速、やってみます」と話していた。

「青少年リスタートプレイス」の相談は、平日9：00～17：00　03（3493）8008へ

アドバイザリースタッフを派遣します！

都内公立学校の幼児・児童・生徒のいじめ・不登校・集団不適応などの解決を支援するため、アドバイザリースタッフを派遣しています。

★ **専門家スタッフ**

【派遣先】学校
【回　数】１回
【内　容】子どもの行動観察
　　子どもや保護者との面接・教員への助言

★ **学生スタッフ**

【派遣先】学校・家庭
【回　数】５回ごとに継続確認
【内　容】不登校や登校しぶりなどの子どもの話し相手・遊び相手（１対１のかかわり）

◎　派遣の手続き

１　学校派遣
管理職から当センターに電話で申し込む。派遣可能な場合は、日時・スタッフが確定してから要請書を提出する。

２　家庭派遣
保護者から当センターに電話で申し込む。保護者の来所により、担当が派遣の可否を検討する。

〈申し込み・問合せ先〉
学校教育相談室
　　アドバイザリースタッフ担当
☎０３－５４３４－１９８４

広報 すこやかさん 第15号
平成18年２月発行
東京都教育相談センター　〒153－8939　東京都目黒区目黒１－１－14
TEL　03(5434)1983　FAX　03(3493)2293
http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp

子どものサインに気付いてより良いアプローチへ

家庭教育相談室　統括指導主事　　須藤　太郎

自分の気持ちを言葉にできますか

教員の方からよく質問を受けます。「気になる子がいるのですが、ほとんど話してくれないので、よく分からないのですが」という質問です。考えてみると、大人の私たちでさえ、嫌なことがあれば言葉ではなく態度に出してしまうし、嬉しいことがあればにこにこと笑顔になるのではありませんか。言葉で悩みを表現できる子、そうでない子がいるのです。

心の面でも個に応じてみては

何でもかんでも先回りして幼児を転ばせない親、けんかがあっても仲裁するのでなく表面的に謝らせる大人など、例えばきりがないくらい、子どもの成長を妨げる「善意のアプローチ」があります。一方で、よく教員から、カウンセラーは子どもに甘すぎる、あれでは子どもは育たないという声も耳にします。教育者としては、本人の自己解決能力を伸ばすため、あえて冷たく突き放すのが本当の愛情だ、という主張です。

子どもはそれぞれです。言葉で理解しやすい子もいれば、情熱的な大人の目の輝きや、本人を心配する親の涙のほうが理解しやすい子もいるでしょう。理性と情緒の両面が必要な子もいます。学習と同様に、心の面でも個に応じた指導・助言が必要なゆえんです。その子に合ったアプローチを周りが考え、行っていくことが大切です。心の教育は決まった定食を提供すれば良いのではありません。いわばその子にとっての「おいしい」アラカルト料理が求められているのです。だから難しいのです。だからこそやりがいもあるのです。

子どもの行動を考察するために

本人にとって「おいしい」指導・助言のためには、しっかりとした「子ども理解」が前提になければ困難であることは言うまでもありません。まずは、知り合ってみる、一緒に遊び、観察し、環境を知り、そして、予測してみることが大切です。今、この子にこう働きかけなければ更に状況が悪くなってしまうのではないか、あるいは、適切な指導・助言をしていけばきっと良い状況になるのではという二通りの予測です。

心理学は、その人の心理は行動に表出されるという考えが基礎となっています。何も話さないのは「話さない」という行動であり、「話したくない」という意思表示かもしれないし、「今、混乱している」「あなたのことはまだ信用していないよ」というサインかもしれない、と考えるのです。

より良いアプローチのために

見つけましょう、子どものサインを。考えましょう、どう周りが適切にアプローチしていけば子ども本人の自力解決が図られるか。そこで更につまずいたとしても、ほんの少し周りが支えることによって、多くの場合は自力解決への道が開かれるはずです。

子どもの行動をより深く理解したり、より良いアプローチをしたりするために冊子「子どもの心が開くとき子どもと心が通うとき」をつくりました。好評です。次ページの特集をご覧ください。そして、ぜひ、学校でも家庭でもご活用ください。気になっている子どもの健全な成長に役立てていただけたら幸いです。

東京都教育相談センター案内

総合受付電話番号　03（3493）8008

○電話相談／平　　日　午前９時から午後９時まで
　　土・日・祝日　午前９時から午後５時まで（年末年始等を除く）

＊高校進級・進路・入学相談は、平日も午後５時までです。
＊上記以外及び休館日は、留守番電話により対応しています。
　電子メールは、ホームページhttp://www.e-sodan.metro.tokyo.jpから、お入りください。

○来所相談／午前９時から午後５時まで（平日）

＊電話でお申し込みください。
＊立川出張相談室（立川市錦町6－3－1）においても応じています。

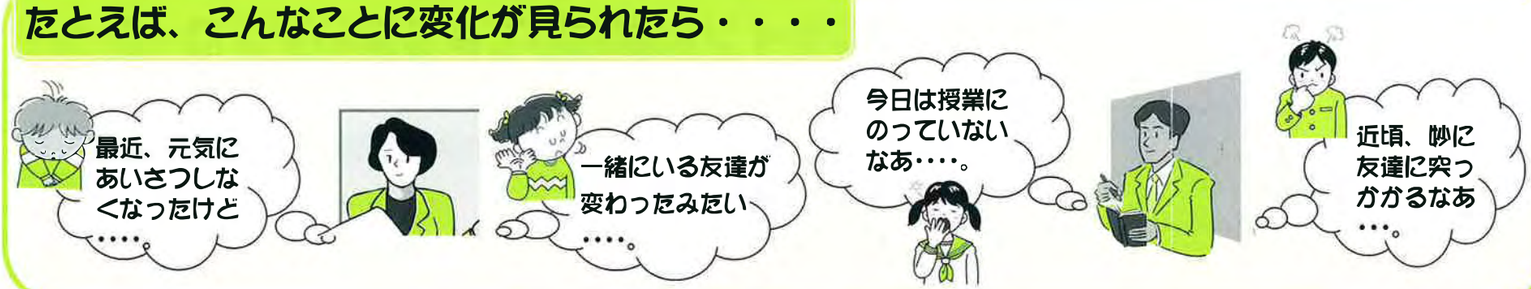
○所 在 地／〒153-8939
東京都目黒区目黒1－1－14

★　所報第１号から第14号は、ホームページ上でもご覧いただけます。

子どものサインに気付いていますか

子どもが出すサインを感じたら、ありがちなことと考えて見過ごさず、教員が何らかの行動に出てみることです。そのことが、子どもの悩みを早い段階で受け止め、大きな問題に発展することを防ぎます。

たとえば、こんなことに変化が見られたら・・・・



東京都教育相談センターでは、学校教育相談推進資料「子どもの心が開くとき　子どもと心が通うとき」を当センターのホームページに掲載しています。
　第１部「学校生活における教育相談的対応」
　第２部「教育相談の姿勢を生かした授業の視点」
　第３部「一人一人の子どもを生かす連携の在り方」
多くの具体的事例をもとに紹介していますので、目次から必要な部分を印刷して日々の教育活動や校内研修会等に活用してください。
(http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp)

変化に気付いたら、行動に出てみましょう。まず子どもとの関係をつくることが大切です。

子どもの様子をよく観察して、それから声をかけましょう。

気にかかることがあれば、「どうしたの」「何があったの」などと声をかけてみましょう。

教員とのかかわりを求めようとしない場合

教員への反発が見られる場合

子どもがなかなか話し出そうとしない場合

つくる

子どもが関心をもっていることを話題にするなど、小さなかかわりの場面をつくります。また、いつでも相談できる雰囲気をつくります。

伝える

「今」でなくても、子どもが必要とした時にはいつでも話を聴く用意があるというメッセージを伝えます。また、子どもを支えたいという教員の願いをしっかり伝えます。

待　つ

「話しにくいかな」など、子どもの気持ちを察し、言葉にします。あせらず待つことも大切です。

子どもが話を始めたら・・・

子どもの心の奥に関心をもち、「共感的理解」を心がけましょう。「共感的理解」とは、子どもの誤った言動を認めることではなく、子どもの立場で気持ちを理解していくことです。

他の教員とも協力しましょう。

一人で抱え込まないように、多くの教員で子どもたちに声をかけていきましょう。

子どもへの担任の思いを、かかわりのある他の教員が積極的に伝えることで、滞っていた関係が改善され、子どもの気持ちが開くこともあります。

「聴く」ための五つのポイント

①　話しやすい雰囲気をつくる。

話す場所、座席の位置や話の導入に配慮します。相づちをうったり相手の言葉を繰り返したりするなど、しっかりと聴く姿勢が子どもの気持ちを開くのに役立ちます。

②　先入観をもたずに聴く。

勝手な解釈、一方的な説明や説得は、子どもの思いとのズレが生じます。子どもの話を、心を込めて聴くことが大切です。

③　相手の発言を待ち、質問を控える。

話が途切れたときは、「考えている」「迷っている」など様々な意味があります。また、質問が多いと、尋問されている思いを与えます。

④　共に考えていく姿勢を大切にする。

子どもと話すときに正論や忠告を与えたり、むやみに励ましたりしがちですが、かえってマイナスに働く場合があります。子どもの意向を尊重し、一緒に考えていく姿勢が大切です。

⑤　非言語的コミュニケーションも大切にする。

話し方、声の大きさや姿勢などは、子どもの様子を知る手がかりです。子どもの状態をきちんと見ていることで、子どもの安心感が高まります。